

報 会

全国文化財壁技術保存会

第 9 号

平成二十一年(二〇〇九)年三月一日発行
 編集 全国文化財壁技術保存会
 発行 愛知県江南市力長町 大当寺二二八
 事務局
 TEL (〇五八七) 五九一八〇〇〇



会員の皆様におかれましては、ご健勝で業務にお励みのことと存じます。また平素は保存会にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて冒頭に、大変残念な報告をしなければなりません。長年、本会の事務局の重任を担われ、多大なご尽力をいただいていた梅川さんが急逝されました。平成 20 年 4 月 15 日、梅川社長

逝去の報を電話でいただき、我が耳を疑いつつご自宅に急行いたしました。梅川さんは会社事務室で倒れられ、救急車で病院へ搬送、死亡が確認されたとのことでした。ほんの数日前、16 日予定していました役員会の段取りや、今後の運営について 2 人で話し合ったところでした。ご遺体を前にし、本会のため選定保存技術団体の認定や、その後の研修会、運営の立案等、当会の目指す文化財保護に多大な功績を挙げられた事に感謝しつつ、本会の今後の進むべき道を導いていただくよう祈念いたしました。大変ご苦労様でした。安らかに眠りくださるよう謹

んでご冥福をお祈りいたします。この状況から急遽役員会を開き、19 年度の暫定事務局は中島幹事をお願いしました。また、奥井会長の退任にともない、会長、副会長の交代、また事務局の異動が必要となりました。このため 20 年度総会(名古屋市)において、佐藤が会長に就任することになりました。

今日までも会運営に携わってききましたが、他の保存団体と比べて活動の幅が少なくこの沈滞状況を打ち破り、共に文化財保存の為、先ず会員の増加、資料、道具等それに伴う資料調査を行いたく考えています。会員については、左官及び材料関係も数

名入会されました。道具では鏝の手打ち職人の確保も必要と考えています。今後会員の連携を密にしてまた各研究機関、学校、研究者、保存団体等と親しく交流を深め、共に連携して文化財建造物を後世に引き継ぐべく、その役目を自覚し、努めてまいりたいと考えています。今後より一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

会長 佐藤治男



会員の皆様、また本会に絶大なお力添えを賜っている関係各位様には、ご健勝にてご活躍の事とお喜び申し上げます。

第16期総会におきまして副会長の指名を受けました。元より微力ですが、皆様の御後援をえて、本会が文化財保存の一翼を担い、益々発展いたすべく頑張っていきたいと思っています。

会員数も除々に増加し、また伝承者養成技術研修会も活発に活動しています。今後益々内容を充実するべく、考えていく所存です。会員の地方色を尊重し、融合して一つの方向へ進んでいかなければなりません。

皆様方の一層のご支援、御協力をお願い申し上げるしだいでございます。

副会長 安達保信

16期(平成20年度)

総会を開く

平成20年6月25日に、名古屋市中で第16期定期総会を開催しま

した。この度は会長、副会長の交代、事務局の異動等大きく変わる事になりました。

来賓には、(社)全国国宝重要文化財所有者連盟事務局長の後藤佐雅夫氏、関西大学の西澤英和先生、愛知県文化財保護室長の村上恵美子氏、姫路市立城郭研究室長の上田耕三氏にご出席いただきました。

平成19年度の事業報告及び収支報告、20年度の事業計画及び収支予算の審議を行い、原案通り承認いたしました。特に本総会では、奥井会長の退任にともない、佐藤会長、安達副会長の就任、梅川さんの急逝による中島幹事の事務局担当が決まり、大きな節目の総会となりました。

奥井前会長、長らくご尽力いただき、改めまして御礼申し上げます。

また、梅川さんのご冥福をお祈りいたします。

次代を託せる

研修生たち

石田貞男



時代の変革によって左官の仕事が大幅に減少していく中で追

い打ちを掛けるように各地で大震災が起こり大被害を受けました。この事により建築基準法が見直されて厳しく制約されました。何百年も続いてきた日本の伝統的な土壁や漆喰壁、漆喰彫刻等は益々敬遠される羽目に追い込まれてきています。長年その仕事に携わってきた私には、納得のゆく事ではありません。時代の流れとは言え、我々の力

では、時代に逆らってもどうにもならない事で実に残念です。

先日、若い設計士数人の方と話をしましたら、その人たちが皆が、竹小舞下地土壁は全く経験が無いと言われました。私は、今はもうこんな時代になっているのかと驚きました。自分に経験の無い仕事を設計に入れる事は恐らく無いでしょう。でも、その人たちは、私の話し聞いていて土壁に興味の有る事は伺えました。

そんな時代の中で、古い仕事を習っておきたいと頑張っている若い左官職人たちがいます。文化財建造物修復工事に携わっている事業所の後継者たちです。文化財修復工事には、今一般に使っている簡単に作れる新建材を使っているわけではありません。その材料作りが大切なのです。しかもその土地の材料と工法で復元するのが基本ですから、解体時の

調査を見逃してはいけません。調査が非常に大切です。調査方法も大変重要です。こうした事を文化庁、文建協、文化財関係の諸先生方の座学や先輩たちの実技、そして古い仕事や新しい仕事の見学も行い勉強しています。こうした研修生を指導する立場の全国文化財壁技術保存会は、京都・奈良を中心に東京から鹿児島まで、今はまだ20名の少ない人数ですが会員が力を合せて、関係の諸先生方のご援助とご指導を頂きながら研修生の指導に当たっています。研修生は年に7名を目標に、各事業所の後継者を受け入れて2年の間に日本の各地を選んで研修を受けています。

この研修生たちの態度、行動、取り組み方を見ていて感心させられる事があります。それは、一期毎に7名が各地から集まって来るので初対面なのに、今ま

で付き合ってきた者のように話し合い、相談し合い、ある時は作業を分担し、協力し合って仲良く、指導者にも素直に従い取り組んでいます。その姿は印象的で感動させられます。これは、お互いに古い仕事を学ぼうとしての同志者の姿だと思います。

研修の内容については各研修生のレポート発表を書いてもいい、会報にも掲載していますのでご覧になって頂いていると思います。こうして、毎年7名の者が果立っています。今後、各事業所で研鑽を重ねられ、やがては文化財修復現場での指導者として活躍される事と思います。折角、知り合った研修生たちが将来声を掛け合って文化財を守ってくれる事を期待しています。

最後になりましたが、文化庁、文建協、文化財関係の諸先生方が、今の若い彼らを目に止めて

いただき、益々のご指導ご鞭撻を頂きます様お願い申し上げます。

(石田左官工業所代表・香川県)

平成20年度

伝承者養成技術研修会

(普通講座)

国の補助を得て平成14年度から始めました伝承者養成技術研修会、前期8月25～30日で、5名の研修生、後期11月10～15日で、6名の研修生について、全12日間実施しました。

研修内容は実技を主に行いました。高知県での土佐漆喰の講義及び塗り仕上げ、姫路市で大津磨き(赤・黒)実技、愛知県江南市で大津壁仕上げ、タタキ仕上げ実技、富山県の竹内源造記念館で鏝絵の実技と建造物見学を行いました。



消石灰製造見学



講義



大津磨き (赤・黒)



大津磨き



タタキ仕上げ



タタキ土の準備



色々な色の大津壁塗り



芻の準備



鰻絵体験



鰻絵見学

研修を終えて

平成 20 年度研修生の感想

石田 均

高知・姫路・江南・高岡と合計 2 週間の研修でした。

高知では、我々が仕事で良く使う石灰の製造工程を田中石灰さんに、また土佐漆喰の塗り方・仕上げの方法を松本先生に、土佐漆喰の歴史などを中脇先生の講義で受けました。

姫路では、大津壁の材料の作り方、塗り方、仕上げ方法など、姫路城では、貴重な資料などを拝見でき勉強になりました。

江南では、土間のたたき、大津壁の材料作り、塗り方、仕上げ方法などを保存会の先生方に指導を受けました。土間のたたきでは、前回の研修生のたたきを壊してから作業でした。それがコンクリートのように硬かつ

たのには驚きました。

高岡では、石崎先生による鍍絵の作成、先人の竹内源造の鍍絵の作品を見学しました。伊豆の長八も有名ではあるが、源造の作品は、立体感があり今にも飛び出しそうな迫力のある作品でした。

このように、上塗り材料の作り方はマニュアル通りではなく、文化財は全国にあるのだからその土地・土地の気候風土にあった材料を使うこと、道具の使い方などを各地で色々な先生方に御指導していただきました。

また、この研修で各地の良き友に会え、年の差を関係なく話し合えました。左官道具を大事にし、勉強熱心で感心しました。この研修に参加して、まだまだ自分の未熟さを思い知りました。これを基に若者に負けないよう精一杯頑張ろうと思います。これから御指導の程、よろ

しく願います。また、このような研修を開催してもらいたいと思います。

(石田左官工業・香川県)

水野 秀紀

20 年度研修会に参加して、全国各地から土について、壁について、左官について学ぶ者が集まり左官の基本を学ぶ事ができて本当に幸せだと思いました。

いつもは、各店で仕事として左官をしています但し他の店のスタイルや考え方が、研修生との話の中で勉強する事ができました。

まず土について、どここの土は色がいいとか、石灰はあそこがいいとか、それぞれ色々な考え方があったと分りました。いつもやらない事や、少し難しい仕事などは、基本を学んだうえで応用・アレンジして仕事をこなしていきたいと思いま

した。

左官で使う材料についても色々な材料がある事を知り、その物だけでは材料として使えない(土の粘度により砂を入れたりワラを入れたり)という事を知りました。今まで何気なく仕事をして月日が経ったけれど、これから基本を大切にして、それぞれの材料についても勉強していきたいと思います。

道具についても、この鋼がいか、この鍍はいいとか、この鍍は使い良い、というのがある事を知りました。鍍についても色々な鍍屋さんに行き、話を聞いて、こだわっていききたいと思います。

今回の研修で材料の大切さや、鍍の種類、さまざまな仕事、心得を学び、これからの仕事に生かしていきたいと思えます。

最後に、この研修会に参加できた事でこれから仕事について

考えて行きたいと思っています。研修会の先生方には、仕事について、技についてこれからも色々教えていただきますよう、よろしく願います。

本当に色々とお世話になりました。また何かの機会に研修生達とも交流をしていきたいと思っています。

(中島左官・愛知県)

大森 祐郎

平成18年の夏に研修の皆さんとお会いして3年目となりますが、もう10年経った様にも思えます。

平成18年の夏と秋、平成20年の夏と秋にそれぞれ6日間ずつ、計24日間の短い間でしたが、座学や実技、見学、そして寝食を皆さんと共にしたその日々は、各地方の施工方法、それぞれの左官に対する力の入れ方に驚かされ、新発見があり、これから

の左官人生にも大きくひびく、あまりにも中身の濃い研修会でした。

良い機会を与えていただき、感謝しています。

(柳田代千治店・京都府)

塩畑 明浩

今年度の研修は、普段の仕事をしていたら経験したことのない、土佐漆喰・大津壁・鰻絵などの内容だったので、いろんな面で勉強になったし、とても充実していました。他にも、研修生同士でいろんな話が出来ましたので、研修中はいつも良い雰囲気だ進めていけ、とても良かったです。

今年度の研修で学んだ事は、どれもプラスになる事だったので、これからの仕事をしていく上で活かしていきたいと思えます。

2週間と短い時間でしたが、

本当にいい経験が出来ました。有難うございました。

(柳山脇組・兵庫県)

田中 昭義

普段から文化財に携わる仕事をさせてもらっていますが、この研修会に参加させていただいて、文化財の修復意義について見つめ直すよい機会となりました。現代の建物とは違う、その時期、その土地に建てられたという意味を考え、それを重視し仕事に取り組めるようになりました。

また、同業の皆様と数日の間、生活を共にし一緒に学び、交流することができたことも、今後仕事をしていく上で貴重な財産となりました。

今後は、この研修会で学んだことを実践に生かし、また自分の後に続く職人たちにも受け継いでいけるような仕事をしたい

と思っています。貴重な体験をさせていただき有難うございました。

(左官業佐藤・京都府)

本田 俊之

この度の研修会は、お疲れ様でした。講師の皆様、いろいろご指導いただき有難うございました。

この会を通じていろんな人と出会い、いろんな情報交換ができ、今となってはすごく大切な思い出や勉強になったと思います。

この研修会で一番ためになったなと思うのは大津磨き工法でした。

今までに大津磨きや土佐漆喰の磨き、黒漆喰の磨きの研修会に行ったことがありますが、いつも磨きの鰻で力一杯で磨くというふうにしていました。ところが、安達講師のやり方は、力

一杯ではなく、軽く押さえて磨くというやり方でした。普段どおり力一杯で磨くと、指の皮がめくれて痛い思いをしていましたが、このやり方だと楽に磨けて、いつもと変わらないくらい光っていました。本当に驚きました。また機会があればこのやり方でやってみたいと思います。本当にいろいろ有難うございました。また機会があればご指導よろしく願います。

(本田左官工業所・大阪府)

「文化財保存技術2008」 文化財を支える伝統の名匠

文化庁の主催により、平成20年10月25・26日、高松市のサンポート高松において開催され、本会も参加し、展示等を行いました。



活動紹介・道具・材料の展示

事務局を担当 するにあたり



会員の皆様にはますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は保存会に、ご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

皆様方のご努力並びに各方面のご協力により、発足から16年目を迎えた保存会ですが、平成20年4月の第1回役員会において、急遽事務局の大役をお受けすることになりました。また6月の総会にて、佐藤会長、安達副会長の就任、役員として津田誠一さん、小林錦四郎さん、石

田貞男さん、山脇一夫さん、田代益一さんが平成20年度の幹事に就任されました。今後も一層、会の発展・充実に努力しなければならぬと肝に銘じています。皆様宜しくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

梅川さんの急逝により、引き継ぎができない状況で事務局を代行することになりました。資料が乏しく、例年よりも作業が遅れましたことをまずはお詫びいたします。交代後まず取り掛かりましたのは、6月の名古屋で開催しました総会の準備でした。期限が迫っている中、会費の請求や総会の案内、来賓依頼や会場・物品の手配などの作業に追われとても不安でしたが、無事終了できました時には充実感を得ることが出来ました。

続いて補助申請の手続きでは、平成21年度文化財関係国庫補助事業計画書(7月・11月)及び、

平成 20 年度国庫補助事業進捗状況調査書(9月)を全国文化財保存技術連合会へ提出する際、引き継ぎ後で資料は手元にあるものの、書類作成の要領がわからず、過去の資料を参考にし、書類作成となりました。

8月の前期日本壁伝承者養成技術研修会をはじめ、10月の高松で開催されました伝統の名匠2008、また11月1・2日と京都で開催されました公開セミナーの準備では、前期研修会場である山脇さん(姫路)をはじめ、高松や京都での保存会会員の皆様のご尽力にお礼申し上げます。また相談に乗っていただきました主催側の皆様に、心より御礼申し上げます。

後期の研修会は、11月に中島左官(愛知県江南市)で行いました。また富山県にて鏝絵の研修も行いました。前期とは違い全て事務局で手配をしたの

ですが、急な手配の変更も多く、その対応に追われてしまいました。特に富山での研修につきましては、連絡が上手くいっておらず、建造物見学で何処を見学するのか把握出来ていない状態で、当日も慌ただしくなっていました。研修中お力添えを頂きました石崎様、田村様、その節は本当に有難うございました。改めまして御礼申し上げます。

また、11月23・24日には、彦根で、昨年度の研修参加者を対象とした荒壁塗りを行いました。その他にも、日本住宅・木材技術センターの公開耐震実験の左官工事を保存会で受託することになり、書類の作成を行ないました。

このように事務局の運営につきましては、過去の資料を基に手探りで進めている状態で、前事務局の梅川さんの大変なご苦勞をお察し申し上げるばかりで

す。

まだまだ戸惑いながらの作業ですが、出来ることから改善に努め、一日でも早く円滑な運営が出来るよう努め、保存会の更なる充実・発展を目指し、これから全力で取り組んで参りたいと思います。皆様、何かお気付きの点等ございましたら、ご指導いただきますようお願い申し上げます。

(事務局 中嶋正雄)

刊行物のご紹介

保存会と姫路市は平成14年に覚書結び多くの共催事業を行ってきました。姫路市ではこの度、これらの事業などを纏めた冊子を刊行されました。『「姫路城漆喰技術」継承の取り組み』です。一冊800円で販売されています。ご希望の方は、姫路市立城郭研究室までお問い合わせください。

さい。(TEL 079-289-4877)



編集だより

前号まで梅川さんと編集を担当してきましたが、会にとりまして大切な方を急に亡くし、大変残念です。梅川さんとは、様々な活動を共にさせていただき、多くの思い出をいただきました。今後は、中嶋新事務局と協働して頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。また、本号にご執筆いただきました皆様に御礼申し上げます。(編集事務局 姫路市立城郭研究室 上田耕三)